

# 「観音寺日譜」(5)

(京都府乙訓郡大山崎町観音寺所蔵)

——宝曆九年日譜①

石 井 日出男

本稿は、宝曆九年(一七五九)「観音寺日譜」について、その前半に当たる正月一日から六月末日(廿九日)までを解説して紹介する。

大山崎荘内の観音寺領については、観音寺第一世以空が東山天皇の詔を得、綱吉から朱印状の発給のあったことが指摘されている。<sup>(1)</sup>筆者も前稿の解題において、この朱印状の全文を紹介し、観音寺領の性格について若干の検討を加えたが、朱印状の発給に至る事情は従来未解明であるので、以下その点について論及しておく。典拠は正親町公通によって編まれた漢文体の「<sup>(山崎)</sup>観音寺縁起」である。<sup>(2)</sup>

37 以空は公通によれば「後水尾院 明正院 仙院<sup>(通元)</sup> 東山院 今上帝五朝<sup>(中御門)</sup> 御帰依僧」で、寛文二年(一六六二)三月、

紫宸殿において、円浄法皇（後水尾院）・女院（東福門院和子）に光明真言を講じ著作の「玉鏡」を献上、延宝元年（一六七三）六月下旬には皇后の命により湯殿日光両山、相州江ノ嶋に代参したりしている。

東山天皇との関係では、詔により「神歌両鈔丸繪讀使」為「書献」、伽羅木に「御本命星形剣上」があり恩賞として、兼て「欣上」、東照大権現大字神號染「賜」宸翰」とのことがあつて、これは従来例のないことでもあり、両伝奏が所司代に告げたとある。さらに、東山天皇の継嗣（中御門天皇）の無事な出生と順調な成育の祈願に功があり、宝永三年（一七〇六）、東山天皇は離宮八幡宮の神領地の内に御朱印地として観音寺領を設定すべきことを詔し、綱吉はその詔を承け、翌年朱印状を發給することになった。

同三稔有<sup>（宝永三年）</sup>テ 詔山崎観音寺山林境内諸役免除之御朱印地<sup>（綱吉）</sup>被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>成度由被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup> 仰出<sup>（綱吉）</sup> 兩傳以<sup>（綱吉）</sup> 書記<sup>（綱吉）</sup> 所司代  
茲信參<sup>（綱吉）</sup> 府<sup>（綱吉）</sup> 節被<sup>レ</sup>渡<sup>（綱吉）</sup> 松平紀伊守<sup>（綱吉）</sup> 閑東<sup>（綱吉）</sup> 持下<sup>（綱吉）</sup> 達<sup>（綱吉）</sup> 大樹<sup>（綱吉）</sup> 公上聞<sup>（綱吉）</sup> 勅<sup>（綱吉）</sup> 詔<sup>（綱吉）</sup> 訪<sup>（綱吉）</sup> 故雖<sup>（綱吉）</sup> 神領<sup>（綱吉）</sup> 可<sup>レ</sup>賜<sup>（綱吉）</sup> 御朱印<sup>（綱吉）</sup> 旨同霜月  
廿五日茲信直<sup>（綱吉）</sup> 僧止<sup>（綱吉）</sup> 被<sup>レ</sup>言<sup>（綱吉）</sup> 聞<sup>（綱吉）</sup> 上意<sup>（綱吉）</sup> 之趣<sup>（綱吉）</sup>

かくして、以空は宝永四年二月廿日山崎を發駕し、三月朔日着府、四月廿三日、寺社奉行三宅備前守康勝宅で同役三名列座の上で朱印状が渡された。五月朔日、綱吉・家宣と対座、御礼を勤め、同七日に時服を拝領し、同十三日江戸を立ち同廿四日に帰山している。六月五日所司代・兩奉行所に出頭、禁裏への御礼啓上のための参内は同八日であった。このような観音寺への朱印状の發給は異例であり（從<sup>（綱吉）</sup> 禁中<sup>（綱吉）</sup> 依<sup>（綱吉）</sup> 仰<sup>（綱吉）</sup> 御朱印相調事從<sup>（綱吉）</sup> 尊氏<sup>（綱吉）</sup> 終<sup>（綱吉）</sup> 無<sup>（綱吉）</sup> 之<sup>（綱吉）</sup>、以空の徳が周囲から唱嘆された（僧止至徳<sup>（綱吉）</sup>、程卿侯緇庶唱嘆<sup>（綱吉）</sup> 所也<sup>（綱吉）</sup>）。千代姫（家綱・綱吉の姉、尾張藩主光友の室）を始めとして將軍家周辺にも以空への帰依がみられるごとくであるが、この時期の朝幕関係の好転を象徴する事例といえよう。以空は著名な隆光とほぼ同時代に活躍している（二三歳年長で五年早く逝去）。

なお、東山天皇は宝永六年六月廿一日に讓位（中御門天皇踐祚）、その際、以空へ大僧正転任の勅約を下している。上皇は十二月十七日、疱瘡の悪化によって崩御するが、「遺勅之趣」もあり、翌宝永七年九月二十六日、新帝（中御門天皇）即位（十一月十一日）の「勸賞」として以空は大僧正に推任され陞任が実現している。

本稿は、神奈川大学日本常民文化研究所の共同研究及び二〇〇二年度日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金による研究（研究代表者 中島三千男）の成果の一部である。

なお、神奈川大学日本常民文化研究所の調査を快諾され、伝世の貴重な所蔵文書の公開を決定されて提供して下さるとともに種々のご教示に与った観音寺住持の井上亮淳氏（元種智院大学教授）に厚く御礼申し上げる。

## 註

- (1) 吉川一郎『大山崎史叢考』（一九五三年九月、創元社）三四七頁。
- (2) 「縁起」については、拙稿「近世中期の御室御所院家寺院——山崎観音寺第三世満空の継席をめぐる考察——」（平成十三年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)・一般）二、研究課題番号一〇四一〇〇八四）研究成果報告書『山城国大山崎荘の総合的研究』（研究代表者 中島三千男、二〇〇二年三月）所収）を参照。
- (3) この時期の所司代は松平信庸（紀伊守・丹波篠山藩主）。信庸は初め「政信」・「信慈」を称したので、「茲信」は信庸を指すと思われる。
- (4) 拙稿「観音寺日譜」(4)——宝暦二年日譜②」（神奈川大学『人文研究』第一四五集、二〇〇二年三月）の解題の註(3)に掲出したが、綱吉の発給した朱印状の日付は四月廿三日である。
- (5) 註(2)の拙稿を参照。

「(表紙)  
宝曆第九卯

日 譜

(24.7x16.7) cm

寶曆九卯年

正月

一日 癸未 雨

一 卯上刻於御書院繙素一同御札申上之畢面々御昆布被下之、畢而於常御間御雜煮

白木三寶  
ぬり器  
御夕節懸盤

屠蘇酒大福御茶差上之

御礼次第 興松寺養傳 定観 圓空 観典 明嚴

智道 賢隆

井上主税 後藤彈治<sup>四</sup> 三宅平馬

一 御礼登山

三  
平田桂州 巽新吾 圓空房從者  
森善三

中西外衛殿

大工  
三人

二日 申 晴

一 京都<sub>江</sub>御使

貞介

仙臺家<sub>江</sub>御書被出候也

此日御礼登山之衆中別記有

一 霽酒一樽

從  
齊藤小八郎方<sub>△</sub>使

右如嘉例 鎮守尊前<sub>江</sub>献供申候也

三日<sub>酉</sub> 未曉<sub>△</sub>雨、午前<sub>△</sub>晴

一 役寮勘定言上候也

四日<sub>戌</sub> 晴

一 登山 角燒壺一折  
御初穂百疋 花壺二箱

右御對面

大坂  
米井屋利右衛門  
供 庄兵衛

一為年賀御入来

木曾干瓢一折

右御對面

一年賀御入来

五日快晴亥

一年頭御出礼、先御室へ御勤被遊、夫々御出京也、御小乗物

御供奉

定観房

井上主税

後藤彈治

清助

人足六人

一右御供、京都直二罷出ル

御輿二人、御挾箱二荷、御茶弁當一荷、人足六五人

一年頭為御祝儀罷上ル、いも一折献上

且例年之通午王二軒一枚之積十二枚、半帟一束、古筆五本被下也

一年頭為御祝儀登山、芋魁境十献上

一入来

神 咒 院

供 即知房

間 法 寺  
安 養 院

興 松 寺

平田桂州  
三宅平馬

栗納野新田  
庄屋弥兵衛  
百姓 一人

安満村  
藤 助

中西外衛殿

一 帰山

京都へ参候人足  
五人

一 牛尾△僧一人来ル、一宿

六日晴子

一 二条 堂上御礼 青侍六尺等

六条 善五郎承

七日晴丑

一 御迎人足差上ル

山下△ 三人

一 登山

右ハ圓空房帰依之衆中也

丹後由良村 新屋万六  
同 惣兵衛  
同田邊 勘左衛門

一年始為御祝詞登山

神足 油屋弥兵衛

護摩一麻一袋進献也

一 退山

中西外衛殿

一 御初穂百疋

山崎金兵衛△

一 京都津嶋屋△使来

右者 中法御供物差上ル

一祝園村神宮寺△使來、右△自分明日登山、着替△為持被越附、森嶋与三太夫△書狀來ル

安満村

藤助

一退山

一御飯山神

御供

興松寺 定観  
平馬 主税

桂十 彈治  
清介

門前之者九人

一久世長門守殿△使

菓子一箱

加藤庄介平沢彈治△役者迄奉狀

右△旧冬花生竹、依所望、御贈進被成候為挨拶也、即答

八日晴寅

一參上

茶二袋

中性院

墨

神宮寺

右中法御助咒御頼也

一由良△參詣之三人 御目見被仰付候也

一參上

六条  
善五郎

右△御參 内人足御用蒙 仰度願也、自今二条御行向之御用△可

申付 堂上御參御用△高倉新八△申付候段申渡候也

一京使

七助



右ハ東照宮高挑燈取<sub>二</sub>遣候也、丸屋迄

九日晴卯

一登山 五本入扇子一箱

右依懇望、中法助咒御頼也

一登山 三本入

一森二袋

一森二袋

伏見観音寺

瑞雲御房

泰雄房

慈空御房

義天御房

興道御房

徳王寺

右中法御助咒御頼<sub>二</sub>付而<sub>一</sub>人来也

一参上 三本入

一同 砂糖漬一曲

外<sub>二</sub>銀壺<sub>一</sub>両寺中<sub>江</sub>

右ハ奥院為随従出勤也

一同

八百屋

金兵衛<sub>下人</sub>

安松久次郎

同伴<sub>右宮兒</sub>

桜井園八殿<sub>宿</sub>

下人

一 由良湊々參詣之三人退山

十日辰晴

一 登山

三本入

中法助衆御頼

塔坊

同

三本入

年礼

淀  
東殿房

同

薯蕷一苞

同断

小泉内匠殿

一 參上

薯蕷一苞

あま村  
年寄兩人

右ハ御年礼也

一 同

外良二郎二棹

三宅伊兵衛

(長芋  
干大根)

右同断也、御料理御酒被下 御對面

一 登山

御菓子一折兼老餅

真詮御房

右ハ御尋、且中法為拜見也

登山

中西外衛殿あま 藤介

家來一人

十一日晴巳

一 退山

真詮御房

一 登山

中西外衛殿

十二日 午 晴

一 中法御満望

一 依御招御入来

神照院 侍従即知房

右後朝之御料理被進候也

一 如例御齋、於客殿、衆僧不殘御相伴

御膳めり三宝

一 退山 塔坊 興道房 中性院 伏見 観音寺 慈空御房 義天御房

一 京使

門前与兵衛

右ハ仙家へ御清物出候也

十三日 未 晴 夜 二 入 雨 雪

一 退山 森嶋与三太夫へ返書遣候也

神宮寺

一同 徳王寺 八百屋金兵衛

あま村 藤介

一 如例御節 門前出入之者共来ル

一同 登山 中西豊後殿 同外衛殿

一年賀参上

松田新八郎殿

下人 老人

十四日 申雪

一 淀過書座 宇治 伏見 丸や 西田 等 江戸稲富

右御清物差出候也

使善七

一 登山

中西豊後殿

十五日

一年賀參上 にんしん五十本

八百屋吉兵衛

一 御返礼御使僧 神照院聞法寺

興松寺

其外 社中 小泉内匠河内屋 甚右衛門

中嶋孫三郎、如例、白銀三匁被下之

供貞介

一年礼參上 外郎餅式棹

穴沢軍藏

一同登山 御菓子老箱、せん子一箱

津しま屋越後  
同庄次郎

一同登山 釣柿 老袋

香具屋 九郎兵衛

力 柝老本

軒子屋 善兵衛

湯波

八百屋 庄兵衛

一同 御多はこ 巻包

茨木屋惣兵衛

十六日晴

一 登山

鴻ノ池屋

長左衛門

金子百足献進

一 御出京

御供

明藏房

井上主税

平田桂州

清助

御駕三人 七助

一 八幡豊藏坊へ御使僧、仁保嶋海苔一折

知道  
供善七

一 同塔坊、浄墨一挺

同人

一 伏見半三郎へ御造酒二升<sup>升</sup>献上

一 淀過書座へ年頭御祝詞<sup>且自分  
砂糖一折</sup>

齊當<sup>齊</sup>小八郎

銀一封献上 牛王十三枚遣<sup>又</sup>

一 為年頭御祝儀登山<sup>金子三百足銀二両</sup>

大坂耐屋  
七左衛門

一 御駕<sup>駕</sup>之者帰山

一 小堀数馬公祝儀状来

十七日

一 上京

一 東役所公女中參詣、依頼案内、智道

定観房  
元助

十八日晴

一 出京

興松寺  
後藤彈  
三宅平馬  
貞助  
山下公五人

一 富田奈良屋権右衛門公使来

御造酒一樽献上

一 登山

中西外衛殿

一同

安満村藤助

十九日晴

一 御参朝

一登山

一登山

依願御札牛王遣ス、御初穂銀一封献上

京都  
中西豊後殿  
河市右衛門

廿日

一公觸書到来、順達

一大坂鍋嶋屋敷鶴弥右衛門殿へ書状到来、飛脚賃錢百文渡ス

一帰山

興松寺

明 徹房

後藤彈治

三宅平馬

希屋 新助

中西外衛殿

林乘法印

一登山

一退山

一登山

足袋一足  
進献

廿一日

一 八幡豊藏坊ニ使僧義運房

右ニ先達被遣候返礼、素麵一折来ル

一 退山

安満村  
藤助

一同

林乘法印

廿二日晴

一 京師へ御迎

御駕之者  
三人

一 杉浦三郎兵衛へ例年御祈祷之宝札御團拜受使

御旦二両金五両 外箱料金百匹

中飯酒差出ス

一 御帰山

井上主税

平田圭主税介

清介

廿三日晴

一 御前、八幡宮神照院へ御出

八幡宮へ銀壹封奉納

明蔵房  
平田圭主税介  
清介



神照院へ尤昆布一函御持参

中西豊後殿へ御使僧 三本人扇箱  
茶一袋被遣

一 伏見尼崎屋吉次郎参詣

一 為御機嫌伺登山

御對面

一 大坂鍋嶋御屋敷へ金子請取之御使

井上主税

仁兵衛

廿四日晴 雨

一 京都仙臺御屋敷御旅亭へ御使

定助

一 昨日八幡宮へ御使僧被遣候御禮登山

中西外衛殿

廿五日晴

廿六日晴

一 大坂へ帰山

井上主税

仁平

鍋嶋やしき鶴弥右衛門方へ御使、昨日一昨日両日参ル、御返事之事、付廿四日一旦帰山、

又作日罷下候分二而御使相勤、神代六登り物受取歸

一登山

右年賀也、御對面

桜井恕軒老

一登山

中西豊後殿

一年賀書状 白藻一包

宮津糸や六郎左衛門殿六

一同断 茶二袋

三行国領寺次郎左衛門殿六

一同断、書状言 鍵や茂兵衛

阿蘇豊浦村春日東吾殿六

一同断

大坂さつまやしき岡元金藏殿六

一 干蕪二括 献上

大黒屋清五郎六

一伊丹溜屋孫右衛門方へ參子僧村之事内聞

明巖房

廿七日晴

一藤村佐渡六使礼来ル 墨一箱献上

右八年賀也

使 止宿

一帰山

明巖房

廿八日晴

一祝園へ罷越私用

智道房

富田

一清酒取

善七

一淀過書座年寄木下小兵衛、江戸表へ被帰候付三二

登山

中食中法菓子  
拝領被仰付

浅草海苔  
中啓 呈上

廿九日晴

一上京 御室内願之儀三付

井上主税

一伏見松田新藏年始為御祝詞登山

昆布 二十本 呈上  
中飯酒中法菓子 拝領   付被仰

一神照院即知師登山

二月朔 (巳) 大

一大坂栄井や利右衛門登山、即日退山

一八幡山泰隆房、為御機嫌伺登山

一帰山

智  通  房

一 京都々主税被召連候善介帰山

二 日晴

一 伏見西田源藏方々使到来 旧冬拜借金子之内銀也、二百目返上  
大根十本呈上

一 主税内願之儀二付、佐和山将曹方へ向、元助被 差方遣 様方、直二京都へ出テ滞留

一 退山

泰隆房

一 觸書到来 別二記ス

三 日晴

一 登山

中西外衛殿

一 河内上太子知岸師々年始 為力□ 祝儀旁使到来

蕎麦粉二袋、黑豆二 袋方□

止宿 使 安兵衛

木綿一反安兵衛 袋方□ 上候也

此方々為祝着、知岸師へ金三百疋被遣  
安兵衛へ銀二両被遣

四 日晴

一 退山

上太子  
安兵衛

一 帰山

井上主税

元助

五日晴

一 伏見牧田友之進方へ旧冬願之儀三付

忠兵衛

登山

六日晴

一 登山、右為御機嫌窺

勝尾山  
観照房

一 御暇頂戴、各年禮之ため鳥養參

養傳房

辰巳新吾

七日晴

一 御室御所より京都御里房へ(第九カ)□則日帰山

御使  
貞助

一 登山

備中  
持宝院

供者  
三人

八日晴

一退山

一退山

持宝院

觀照房

九日雨天

一八幡山大火ニ付、豐藏坊塔之坊

八時より□火

松本坊へ為見舞 使者

火事装束ニ而

後藤彈治

觀典房

供善七

十日晴

一登山

徳王寺

一御暇頂戴上京、右ハ自用ニ付而

明厳房

十一日晴

一退山

徳王寺

一帰山

定観房

十二日半晴

一登山

一帰山

一自持宝院下部差越一宿

尼崎屋

吉次郎

明徹房

十三日晴

一上京、自分用事三付而

一同

一甲子三付登山

井上主税

平田桂嘉

中西豊後殿

十四日晴

十五日晴

一登山、年始之為御祝儀

百人<sub>二</sub>之<sub>一</sub>梯<sub>三</sub>衣箱<sub>二</sub>諸口紙拾帖

一帰山

西田源藏

平田桂嘉

下部  
善七

一 登山、火事御見舞之為御禮

八幡山

泰雄房

一 登山

中西豊後殿

十六日半晴

一 京西屋敷より桂芻出家願之儀ニ付而、

此人桂芻をち

竹部三郎兵衛

被致書置候時ハ、右出家相とめ被下候様与願ニ被来候

十七日晴

一 私用上京

後藤彈治

十八日雪

一 帰山

井上主税

十九日晴

一 登山

中西豊後殿

一 御室御所へ出勤

井上主税事御室出勤ニ付改名



杉本内匠

但廿一日出勤候得共、京都へ罷出付  
此日當山退山出京、御旅館において仕度

一 帰山

後藤彈治

一 登山

唯麿房弟子  
大周房

右初而登山二付、不承人故速退山、於客寮、中飯出之候也

一 富田へ御酒取使

清介

廿日晴

一 登山

京都筆屋  
弥兵衛

御機嫌窺柿十進献

一 下部善七御暇被下候事

廿一日晴

一 上京、右者御里坊三相成候寺為吟味

定観房

一 退山

筆屋  
弥兵衛

一 登山

徳王寺

一杉本内匠殿、弥今日御室、出勤候也

一御室御所真乘院殿弟子自性院傳法灌頂相濟候為御祝、真乘院殿、金子百疋并書状壹通箱入、  
以使僧差被送候

使僧則日掃山

智道房

下部貞助

一御暇頂戴、在所、引取

下部善七

廿二日晴 無事

廿三日晴

一歸山

定觀房

一退山

徳王寺

廿四日晴

一京因幡堂修行○鍋嶋屋敷江御使僧

○為御尋、葛粉一箱御送、即日歸山

一正親町中将殿、御書使

明巖房供

貞助

沢井衛門

供老人

一 御對顔、大坂鴻池屋長左衛門和泉屋七兵衛、右奥院來客也  
京吉見玄貞

一 登山備中持宝院主從三人

廿五日雨天

一 持宝院歸国、為御カネ錢別、金子二百疋墨二丁被遣候也

一 登山

山田七左衛門

右者 中西豊後殿當職被相勤候二付、

銀子一貫目拝借就御許諾、為落手也

後藤彈治證文引遣相渡候

一 右為御礼登山

中西豊後殿

廿六日晴

一 (無記入)

廿七日晴

一 豊藏坊ら使僧

義咩房

隣寺焼亡三付、御見舞被遣候為御礼

一真上村光徳寺へ参ル、自分局

定観

廿八日雨

一京都御里坊へ御使

七助

御挟箱一荷為持遣ス

一登山

西田源藏

廿九日 朗

一御上京

供奉  
源藏

桂

弟  
清介  
貞介

晦日 晴

一伏見へ罷越

後藤彈治

三月朔日雪

一帰山

三宅平馬

一同

一(無記入)

後藤彈治

二日晴

一上京

明 嚴  
七介

三日晴

一御礼登山

中西豊後殿

四日晴

五日晴

六日晴

一松平丹後守様伏見御泊二付、弥平左衛門様御供故、為御伺京都々伏見へ御使僧、明嚴房  
一京御里坊へ御使

下部  
貞介

伏見  
一 歸山

七日晴

一 為御迎上京

一 御歸山

八日晴

一 登山

能勢源藏の黄金百疋御初穂献進

一 泰雄房、此度下国に付御暇乞登山

一 浪華へ下向

一 登山

明 嚴

三宅平馬

桂 七介

平馬

清介  
七介

河崎金太夫

観典房

見龍房

豊後殿

九日雨

一柳谷へ御参詣

供奉 金太夫

彈 治

圭 丞

清介

十日晴

一退山

金太夫

一登山

太田七郎兵衛

餅米五舛献納

十一日晴

一為御見舞登山

松田新八郎殿

兄將藏義無摺子細三付、暫御扶持被下候様被相願御領掌有之候、仍而近日中被参候筈也

観典

見龍

一帰山

十二日雨

一 備中持寶院ノ御室ノ飛脚被登候ニ付、當山為御伺立寄

一 登山 醬油八舛樽ニ樽被差上、即日御室ノ參

中西殿□□殿

神照院律師ノ

一 御見舞使僧

即知房

椿花一筒御到来

一 京御使

清介

杉本内匠ノ書状到来 御所御家来ニ被 仰付候趣、委細言上

一 富田ノ御酒取使

忠助

便ニ付光徳寺ノ定観より手紙遣

十三日 晴

一 御團存

一 暮六ツ時御觸書来

右者 井上河内守様所司代御役ニ付 先頃御上着、依之初礼本寺本社當月十六日出仕之旨也、

委細御觸書記ニ有之、尤當院觸溜りニ付、明十四日、以使、松村三郎左衛門方ノ返納候也



十四日

一平田桂<sup>ヲ</sup>効儀、就私用下宿

松村へ觸書、<sup>三</sup>使也

貞介

一為御伺登山

西田源藏

一備中持寶院<sup>ノ</sup>御室へ被差登候飛脚相濟、歸掛奇山、即夜下坂申付遣<sup>ス</sup>

千藏

一登山

中西豊後殿

一御祈祷御開壇

一登山

桜井恕軒殿

小童一人

十五日

一明日<sup>祈</sup>諸司代へ諸山初礼出勤<sup>ニ</sup>付御出京

養傳房

一下邊へ被參<sup>ニ</sup>付山下<sup>ニ</sup>止宿被申、観音へ參詣之由<sup>ニ</sup>而登山

山本恕哲老

供一人

一摂津之国西宮の下打出村次郎右衛門と申者、西之宮角や仁右衛門<sup>ノ</sup>被頼御祈祷願来、一宿、御旦料銀壹枚相備、翌朝 御守札 守護 歡喜團<sup>ニ</sup>為頂遣<sup>ス</sup>

十六日晴

一登山

栄井屋  
利右衛門

湧池屋

長左衛門

御役付初礼也

一諸司代御出礼相濟帰山

養傳房

山下雇之者

翌日叡山石山へ御參詣ニ付山駕為差登之ため仁兵衛長八罷帰直ニ兩人上京御供いたす

右諸司代へ御出礼ニ付京都雇之者六条善五郎方ニおいて、御先二人 陸尺四人御挾箱

アト也

二人 御長柄持一人 押一人、都合拾人京都雇 西田源藏 松田将藏

御近習

古市村

徳王寺

一登山

一退山

桜井怨軒老

小童一人、僕一人

十七日晴

一御觸書到来 葬送道具の觸也、別ニ記ス

一為時節御伺登山

中性院

一帰山

定観房

此日御室へ御使僧被相勤、主税被召出御家来被 仰付候、御礼なり

一晚方二条東御奉行所真野弥三郎殿石嶋五三郎殿、明日小林伊豫守殿此辺御巡見ニ付當山并當所

ニ仕儀御座候趣、為知使中座らしき者兩人參、依乞茶漬差出承知之趣、興松寺へ請遣ス、尤御前

ニハ御他行故、御所勞相断申遣ス 山下山田七左衛門方へ為念為知遣ス

十八日晴

一先達而大疏大日蓮様拝借之御礼、時節御伺旁登山

塔之坊

東御奉行

一小林伊豫守殿船而被相下、橋本を被上、當所八幡妙喜庵寺御巡見牛引通それを當山唐門筋を

御案内申、本堂本尊開帳、舍利大日尊拜有之、方丈へ坪重門を被上、暫休息、客舎へ案内

いたし直二并當被遣、七ッ前退山、登山之砌唐門下天王道筋行違の所迄出迎、退山之砌惣

門筋横道迄相送也、伊豫守殿子息小林清五郎殿御同伴、尤御内之之由也

伊豫守殿用人柏崎只右衛門 案内者同心三人

客殿 客亭兩所二において

藤井才次郎

茶 多葉粉盆 菓子出ス 御親子へ

小林友三郎  
吉竹喜藏

御近習中へ多葉粉茶出ス、委ク記録二留在也

養傳明藏

出迎罷出  
僕一人

十九日晴

一登山

渡辺

南京  
香合

渡邊装右衛門

弥平太殿

扇ヤ  
まんちう

坂部弥平太

伏見の船二而

僕一人

井上縫殿

平田桂丞

清介

御駕者二人

廿日晴

一 退山

當山△西山廻、夫△京都名蹤一見被致候由

渡辺装右衛門

坂部弥平太

とも一人

井上縫殿

中西外衛殿

一 退山

為御向

一 登山

廿一日雨

一 明廿二日、於丸山、仙臺屋敷各振舞御座候三付、右為取持出出京

興松寺

一 此日渡辺装右衛門坂部弥平太殿京都旅宿へ止宿、同廿三日伏見乗船

廿二日晴

一 仙屋敷就御振舞出京

定観房  
明巖房

一 為御見舞登山

真上村光徳寺

一同

丹後國寶寿院  
津山神照院

一退山

丹後寶寿院

一帰山

興松寺  
定観房  
明厳房

廿四日晴

一登山

中西豊後殿

一(無記入)

廿五日雨

一(無記入)

廿六日半晴

一大阪奈良や平兵衛方、圓空師方へ、祈念願使手代

願主

名代清兵衛同伴

一松田新八郎而舎兄庄藏義先達部新八依頼、此日々出勤

廿七日晴

一上京、私用

定観房  
見龍房  
定助

廿八日晴

一登山

西田源藏

一鳥飼へ被相越、私用

うどみ拾兵衛

一帰山

養傳房  
見龍房

廿九日晴

一屋形様御庖瘡為御窺御使僧

音潮

昨夜、智道房変名被仰付

一帰山

養傳  
定観

一 (無記入)

四月朔日晴

一 京都へ御使

清介

一 登山 くわみ一苞

才賀屋  
半兵衛

一 鳥養へ私用下向

養傳房

一 登山

徳王寺

守丸剃髪三付

一 帰山

音潮

一 紙屋庄左衛門ハ麩三十、こんにやく三十献上

一 登山

探空房

右ハ信忍前山寺へ大檀差下候三付、先觸之儀被相願候、仍而来ル七日頃迄三京都紙屋庄左衛門方迄差出候趣申返ス

一 神照院ハ使僧

即知房

一 同寺へ御使僧

明巖房

明日守丸剃髪三付  
齋三御招被成度旨被仰入

一 住友吉左衛門方へ今日百箇日三付、例年之通年始御使被遣

山下  
元介

二日晴

吹師銀二兩

徳王寺

着座銀一兩

一 明六時守丸剃髮

光徳寺

東岳房 慧空と法名御授與

一 神照院律師御登臨

侍從

密元房

御齋菓子律師白銀壹兩御布施

即知房

一 西屋敷妙亘殿お秀とのゝ守丸就剃髮、祝ため使

粽十把 昆布二拾本被差上 使ハ御引

青銅十匹  
菓子

一 伏見西田源藏悴永藏三弥兩人為御目見登山

金百匹 呈上

僕一人  
婢一人

一 宮田太田七郎右衛門就宿願 天尊へ參籠、尤奥院、圓空師へ内願、而罷越一夜御籠、退山

大坂ゝ 住友吉左衛門ゝ 例年之通御初穂

元介

一 帰山

鳥飼ゝ 金百匹相備

一 帰山

養傳房



三日晴

一 神照院 菩提心命命録講聞席  
一 圓空師就所勞、聞法寺登山

四日晴

一 退山 徳王寺  
一 登山 桜田園八

五日晴

一 退山 光徳寺

六日晴

一 富田へ御酒取使 忠助

七日晴

八日晴

一 登山 二本入扇子箱一

同

外郎餅二種

高木三左衛門  
朝比奈又助  
同 辨之助

右ハ明嚴縁類中ニ而御機嫌被相窺候、則御對顔候也

一 石上主馬方六來客ニ付座敷拜見相頼来ル、則定觀案内令拜見候也

九日晴

一 大津山王ハ詣ス

觀典房  
彈治

一 仙臺御屋敷六御使者入来

服部竺太郎殿

右年始御賀被仰上候、御直答也

一 留守居為同伴登山

堀江文内殿

御對顔後於客寮中飯、畢而宝寺妙喜庵離宮八幡宮ハ參詣、定觀案内、妙喜ハ小杉二束被遣之事

一 御所司井上河内守殿制札御改有之候ニ付、右京太夫殿制札写来ル廿二日廿三日兩日之内四ツ

時六八ツ時迄之内持參候様御觸来

一 奈良屋清右衛門方六御札頂戴之ため使差ノボセ候、使伊助ハも歡喜團五顆被下之候事

一 神照院ハ御出

東岳房  
新吾

十日晴

一登山

鹿嶋  
卓隆房

御機嫌窺也、海草拾枚呈進

一京都へ御使、御室へ諸国御朱印へ御觸書、當山へ為御心得被差越

七助

一神照院へ御出

東岳房  
新吾

菩提心命結講

十一日晴

一登山

中西外衛

十二日晴

十三日晴

一出京

定観房

右ハ仙臺公の年頭御祝詞被仰上候□□御使者ニ御再答被仰上、且又過日蛸薬師寺中□□院傳

之儀内匠殿へ被仰入ニ付、對談之ため泉和泉式部松寿院へ被罷越、山下元介御室へ御觸書返上使、

内匠殿残荷相送遣ス

一登山

丸屋五兵衛

十四日晴

一東岳房雞髮祝謝礼之ため西屋敷へ罷越、彈治借寺之儀、付同伴罷出、兩人即日帰山

帰山

貞介  
元介

一退山

西田栄藏

一神照律師御臨況

即知師侍従

十五日晴

一帰山

定観房

蛸薬師寺内玉泉院借院首尾一感□就、尤紙庄取持二而年中金四兩借料

一登山

中西豊後殿

十六日晴

一登山

即日退山

栄井屋

右衛門

利



湧池屋

長左衛門

帟や饅頭一折五十  
鍋太郎呈上

子息 鍋太郎  
内弟山下親属中

一登山

十七日昨夜、降雨、早旦晴

穂積や  
市十郎

十八日晴

一楠葉□見光寺藤花開盛二付為御遊三□御出、御帰路之節神照律師御案四□清水金剛寺座敷内二而方

御一覽、御帰山七ツ神方□

御供 明巖房 見龍房 東岳房 彈治 庄藏 大次郎 新吾 清介

十九日半晴

一昨日楠葉へ御出、清水金剛寺座敷御一覽二金剛寺方為御礼小杉三束御贈進、御使僧

定観房  
音潮房  
貞介

一仙臺家五月分御守札差出使、忠介

返書ニ花谷對馬退役候趣為知越

一登山

十四日大坂へ就御用罷下

歸掛登臨、尤頼母トモ敷御興行

内談のため也

一神照院御臨況

昨日見光寺へ御出の御挨拶也

一谷寺吉音院同伴僧一人座敷一見就懇望ニ、案内いたし見セ遣ス

一津久井市十郎方々此間相願候儀ニ付使差越御□

廿日晴七ツ半時々降雨

一真上光徳寺へ大門寺之儀ニ付被罷越

暮六過

一津久井市十郎登山

一宿翌朝大坂へ罷下

一丹後田邊林や六左衛門登山、止宿、翌廿一日御目見へ被仰付

岡吉木雅楽大允  
頼母 僕一人

侍從  
即知房

定親□房  
僕一人

廿一日晴

一 參詣 芍薬数本致差備

一 參上

一 真上光徳寺へ使、御多葉粉

狐白裘八包  
書物蔵等為持被進候

五斤代三拾匁彈治相拂畢

廿二日晴

一 登山 新吾所勞付為見舞

一 御使僧

右者 先頃御觸書到来

前御所司右京大夫様御制札帗札板札之写相認、東御奉行小林伊豫守殿 御役所へ持參、其外

諸用相兼、蛸薬師地中玉泉院へ御旅亭就決定、此日丸ヤ方行□

伏見庄

□ 兵衛

中西外衛殿

聞法寺

定観房

下人貞介

廿三日晴

一 登山

一 御暇頂戴、見光寺參ル

一 御暇頂戴、伏見參ル

西田源藏

興松寺

明蔵房

一 神照院へ御尋 奈良崎一端  
葛二函被遣

御供  
東岳房  
清助

中 啓一本

一 入来水 餅一函 進献

多葉粉一包

摂州  
大門寺

廿四日晴

一 退山

大門寺

一 歸山

明厳房

一 神照院へ昨日御尋訪之為 御  
棟 □ □ 拶、即知師登山、庭園之花数本御贈進

一 歸山

定観房

廿五日曇

一 奥院へ浪華奈良ヤ清右衛門方へ使差越二付、上天尊へ油壺樽献供

一 神照院西谷名目開講 冠注

一 登山 止宿

杉本内匠殿

一 登山

養傳房へ内用二付罷越

鳥飼  
藤兵衛

御前御逢被遣、一宿、翌廿六日退山



一養傳房與松寺退休之儀願之通此夜被 仰付、  
拜領物等委曲記<sub>レ</sub>禄<sub>ニ</sub>留有、尤御願之趣以書付被  
仰上、則納置

廿六日午之時過<sub>テ</sub>降雨

一御機嫌伺、且北山田莊内向之儀<sub>ニ</sub>付登山

御對面被成遣

從  
等藏房

一(無記入)

廿七日半晴

一退山

杉本内匠殿  
忠介

一神照院<sub>ニ</sub>芍薬数莖御贈進

廿八日晴

一登山 浅草海苔十枚呈上

大石喜兵衛  
僕一人

一御觸書到来、別<sub>ニ</sub>記<sub>ス</sub>、御諸司様御巡見之砌、入御覽<sub>ニ</sub>来候寶物等<sub>ニ</sub>て明廿九日書付可差出  
旨なり

神宮寺 妙喜庵 寶寺 觀音寺 右四ヶ寺へ別觸、當山觸留故、翌日明巖上京之序松村へ觸書返納いたし畢

廿九日晴

一昨日御觸書到來ニ付、東御奉行所小林伊豫守殿役所へ御諸司様御巡見之砌、什賈入御覽候先例無之旨、以書付相届申畢、石嶋五三郎殿取次

一登山

明巖房  
清介  
疋田大学殿

一伏見松田新藏殿る時節為御伺、使被差上、草牡丹数莖呈上セラル

五月朔曇大也

一登都  
私用なり

養傳房

一新吾母登山、とも一人、娘お常儀ニ付養傳房へ内談之ためなり、奥院ニおいて御前御目見被仰付

一登山

中西親子

二日晴

一歸山  
京都る

養傳房

圓空師内願之儀ニ付 御室杉本内匠殿空元様権律師 宣下之御年齢相尋被越、三日認差  
出ス

三日晴

一上京

鍋嶋屋敷へ御国御書相頼のため也

観典房

一御室杉本内匠殿へ用書遣ス

奥院 善三相勤

一神照院へ御出

見龍房 東岳房 清介

一登山

大門寺儀ニ付

真上 光徳寺

四日晴七ツ過雨

一帰山

観典房 善三

一大工平治へ粽献進

五日曇

一仙臺家御祝書差出使

正親町家へ無盡講断申遣

一 登山 當日御祝

中西姓親子へ

一 登山 富田宮寺之儀<sup>二</sup>付御使被遣候所登山

徳王寺

一 神照院へ御使僧被遣

東岳房

四教義集註増輝記御借進、明厳持參

六日曇

一 無事

七日雨、午前少晴、又雨

一 登山

中西外衛殿

八日晴

一 登山 虎やまんちう呈上

鴻池屋  
長左衛門

一 冠馬場村小兵衛取次<sup>二</sup>而高槻伊兵衛と申者倅義<sup>三</sup>付祈念相願 小兵衛へ大根一把献供

一 登山

松田新八郎

文鋒子やうかん呈上

文鋒子

一 養傳房明日興松寺へ引取三付、為御暇乞、茶の間ニおいて御料理頂戴被仰付、光徳寺御登臨  
二 付御相伴

九日晴

一 仙家御入料拝受

定観房

再正親町家へ無盡講御断申遣

七介

一 中西豊後殿嫁おつね鳥飼被帰候由ニ而登山、御目見被仰付

一 登山

西田源藏

源藏へ先達而榮藏へ拝領

義吽房

被仰付候晒布一端被下置

一 養傳房興松寺へ退休、佐々木六右衛門樋野源右衛門へ頼状遣ス、定観明藏奉書、序ニ源右衛

門拝借之金子催促申遣 音潮房為送遣サル 清介

十日雨、八過ル晴

一 御室佐和山将曹殿へ御使

忠介

内匠殿へ手紙遣ス

一 退山

真上  
光徳寺

一登山 御對面被仰付

永来彦兵衛

一登山 御前へ内願<sup>二</sup>付

大石喜兵衛

十一日晴

一御前浪華へ御越

御供 東岳房

大石喜兵衛内願之儀<sup>二</sup>付、

松田正藏

吹田ヤ<sup>二</sup>御滞留之積也

清介

一京都へ御使

山下元介

當月ぶん御札箱等取寄のため也

十二日晴

一<sup>大坂</sup>歸山

山下長八

一大坂薩州屋敷吹田ヤ渡邊氏へ例年之通筭御贈進使

山下元介

十三日晴

一淀家中之由<sup>二</sup>而女中參詣、客舎<sup>二</sup>而茶差出候処、青銅二十疋鎮守へ奉納退山

一登山

中西外衛殿

大坂  
一 帰山

十四日晴

元介

御前へ御書、虎屋まんちう一折寺内縋素中へ、拝領被仰付、塩ヤ平兵衛方へ守護箱取帰

十五日晴、午後雨雷鳴

一 仙臺家六月分御守札差出使

七介

留守居元へ、筭御贈進 持寶院状差出

一 神照院へ艸花数莖御贈呈

一時節御伺登山

井上縫殿

一夜三入四ツ時過、御前大坂へ御帰山

御供

東岳房  
松田庄藏  
清介

十六日晴

一字治淀伏見へ、五月分守札差出使

上林へ茶壺差遣ス

一 高槻

冠村小兵衛取次  
伊兵衛先達、相願候守札頂戴のため登山、銀七封獻供

一 退山

井上縫殿

一 神照院へ御使僧

見 龍房

一 伏見北国ヤ新右衛門家内之衆輿院へ參詣、上へも參詣

十七日晴

一 神照院

御光臨、即知師侍徒  
夏菊四箇御隨身

一 京都西与力野村彦三郎殿登山、客舎二而暫休息、退山

一 登山 丹波多葉粉呈上

森田庄左衛門

十八日晴 無事

一 (無記入)

十九日晴

一 禁裏献上 閑院様御守札献上

明 蔽房

御札 枇杷一籠

清介  
忠介

長橋様同断、右京大夫へ小杉

長橋御障二付御引込、依侍従内侍へ御答書被指出、長橋様自分御状御答書三田へ

仙臺家へ紙御子紙也ヤ迄御状到来 延姫様御逝去為知 屋形様御庖瘡二付御參府御延引為知也



一 觸書到来、延姫様御逝去<sup>二</sup>付、洛中洛外十八日<sup>三</sup>三日<sup>カ</sup>中鳴物停止旨  
森田庄左衛門

廿日午前<sup>六</sup>雨

一大坂大和ヤ善兵衛兄弟登山、御逢被成、虎ヤ羊羹呈上

一 京都東組与力木村源八息子城之介同伴登山、御對面、中飯差出、妙喜菴一見案内定観房被申  
退山

廿一日半晴

一 仙臺御屋敷<sup>ハ</sup>御使僧

観典房

屋形様御疱瘡御肥立兼<sup>三</sup>付御參勤御延引之御伺 延姫様御逝去<sup>二</sup>付

屋形様<sup>ハ</sup>御窺<sup>定介</sup>

一 紙屋新介高槻<sup>ハ</sup>參候由<sup>二</sup>而<sup>私用</sup>歸掛登山

一 浪華<sup>ハ</sup>下向

定観房

一大和ヤ善兵衛兄弟奥院<sup>ハ</sup>退山

廿二日晴

一 鳥飼興松寺退休被仰付候為御禮伺公 強飯一器 枇杷一籠呈上

即日退山 僕一人

廿三日未明、降雨

一退山

興松寺

一正町家（一説）へ、箒路御贈進使

元介

其外所々へ

一紙ヤ庄左衛門方へ飛脚到来 右へ鍋嶋屋敷御留守居石丸嘉右衛門殿へ御贈進被成候箒被差

帰三 付右返書為持越候、箒へ紙庄へ被遣、鍋嶋屋敷へ、先御返書迄被遣候事

一為御伺登山

中西豊後殿

廿四日晴

一御里坊へ罷越

後藤彈治

明日御出京被遊候故

貞介  
平治

御挟箱一荷為持登

廿五日晴

一御出京

東岳房  
松田庄藏

清介  
御駕三人

大坂

一 早旦帰山

定観房

七介

一 京都へ御駕者三人帰山

明日明厳房出京可仕旨申来

一同断

平治大工

一出京

廿六日晴

明厳房

廿七日晴

一夜五ツ時御觸書到来

廿八日同

西田源藏

一 登山

一 淀過書座へ使来

五月分御初穂献納也

一 歸山

後藤彈治  
定介

一 御用ニ付即日定助差登ス

廿九日同

一 京都御使

七介

山協道仙老紙屋丸屋へ如例年筭遣之

一 御觸書到来

晦日同

一 登山

中西豊後殿

六月朔日大晴

一 歸山

明 巖房

明日御歸山之由承来

一 淀過書座年奇中へ使遣ス

忠助

先達而大阪御下向之砌廿石舟相頼候御礼、且右舟賃差遣候事

二日 同

一 御迎駕者三人差登ス、御用間ニ付御□<sup>(迎)</sup>之者止宿

三日 快晴

一 御帰山

御供  
東岳房  
松田庄藏  
清介

一 密元師、神照院ニ御尋問使僧

四日 晴

一 京都紙屋ニ飛脚到来 止宿申付掃掛  
御室へ寄

右ハ圓空師 御室へ願之義ニ付□□□<sup>(七日)</sup>□□<sup>(即執)</sup>奏可有御座付、六日中ニ御室へ參上 (可致應方)

御□□<sup>(當番)</sup>執□<sup>(連)</sup>役ニ奉書到来

五日 晴

一 (無記入)

六日黃暮△降雨

未明△

一圓空師 御室△參上、夫△京都御旅館△滞留

小乗物山下△三人

此名即日歸山  
善藏侍相務  
貞介右兩人逗留

一大阪鴻池や長左衛門方△茄子一籠獻呈

一祇園會為見物相願上京

見龍房  
巽新吾

七日雨

一神照院△御出

茄子一籠御隨身

一中西氏△粽呈上

御供 東岳房  
清介

八日晴

一歸山

見龍房

一登山

巽新吾

一登山

中西外衛殿

一登山

井上縫殿

即日退山、當山出勤之儀被仰渡

九日晴

一 帰山

御室、首尾能相濟

私用

一 伏見へ罷越

圓空師

安松大次郎

貞介

松田庄藏

十日晴

即日帰山

一 出京

仙大守公御着府之趣

留守居△  
為知状持歸也

豊藏坊様御旅館へ御所勞御尋

定観房

忠介

一 箱被遣、其外用事相兼

一 觸書到来、別記又

一 富田清酒取

七介

十一日晴

一 神照院△即知師登山、来十五日△法相義開講之趣被申来

私用

一 出京

内用

一 出都

後藤彈治

圓空師

一登山

一御機嫌伺登山

枇杷一折獻呈

安松大次郎

鳥飼 遍照院

安満村 藤介

十二日晴

一帰山

一帰山

一南都晒屋参

圓空師

京都へ送人相添  
後藤彈治

十三日晴

一京都仙御屋敷、御参府為知之御答、且暑中伺状近日差出、付役人中聞合

一出京

養傳房

□神照院様御登臨、即知師侍從

□伏見金物屋茨木ヤ清兵衛参

一帰山

松田正藏



十四日晴、八時過る白雨

一 伏見へ参

後藤彈治

一 西丘千せう又長野新田とも云養雲庵無染和尚へ御使僧

唐茶一函  
御贈進

明 巖房  
忠介

□<sup>三</sup>登山 祝團 神宮寺

十五日晴

□<sup>三</sup>上京

神宮寺

一 神照院 法相義開講

十六日晴

一 明七つ時前京都紙やぶ飛脚到来、右へ御室へ圓空師権律師 勅許付、参上候様と當番

中へ申来、明六過圓空師御室へ参上 智道房 定介

一 登山 □日退山  
先向登山の謝礼旁  
中倉酒肴出

大 門寺  
僕一人

十七日晴

一 登山

松井  
中 性院

一 京都 歸山

神宮寺  
興松寺

一 登山

古市

徳王寺

一 京都 仙御屋敷へ御參府御祝書差出、津嶋や菓子取（兼カ）

十八日晴

一 本尊會式例年之通

八幡

義畔房

一 參詣

達僧二人（兼カ）

一 神照院密元師即知師客僧一人參詣

一 京都 歸山貞介、圓空師滯留之趣申來、正親町家御講明十九日圓山端寮におゐて初會興行、

當山 銀二百目紙屋庄左相頼持參候様申遣ス

一 退山

神宮寺  
中性院

十九日晴

七月分  
一 仙家御祈祷御開白

一退山

徳王寺  
興松寺

一富田清酒取

一退山

元介  
小西傳兵衛

廿日晴

一時節御伺之ため參上

三宅伊兵衛

登粉一俵呈上

廿一日晴

一帰山 記録等ハ別ニ委記ス

権律師 勅許首尾能

相濟 奏者處に相納候也

圓空師  
音潮房  
定介

廿二日晴 無事

廿三日晴

一仙家七月分御守札差出使

忠介

御入料書出ル、来二日被相渡筈也

一上京

定観房

正親町家 貞寿院様臙饅頭五十御贈進  
御一周忌御伺御使僧、其外用事相兼  
金剛寺△書状到来

廿四日晴 八時△白雨、雷鳴暮前明

一出坂

天神祭為拝見、御暇頂戴

後藤彈治  
三宅平馬

廿五日晴

一帰山

定観房

一(無記入)

廿六日晴

一登山  
圓空師△  
一暇長申請退山

御前御逢被遣、金子百匹拝領被仰付

鴻池屋長左衛門  
森 善藏

一 西山養雲庵無染和尚御弟子鉄作師登山、先回挨拶、且又其日明厳御願申候染毫物持參、中食  
差出 御前御對面

廿七日晴

一 神照院へ暑中御見廻り御出

東岳房  
新 吾

一 八幡塔坊へ暑中御伺使

真瓜一籠呈贈

廿八日晴

一 登山

真上  
光徳寺

真瓜 新麦一俵御贈呈

廿九日

一 京都仙御屋敷へ暑中御伺御書等差出使、も差出

清介

一 為暑中御見舞登山

從廿石舟年(着)

木下小兵衛

素麴二十把指上候

山鹿太郎右衛門